

**ボッシュ株式会社** 電動工具事業部

ホームページ: <http://www.bosch.co.jp>  
〒150-8360 東京都渋谷区渋谷 3-6-7

コールセンターフリーダイヤル

 **0120-345-762**

(土・日・祝日を除く、午前 9:00~午後 6:00)

\* 携帯電話からお掛けのお客様は、TEL. 03-5485-6161  
をご利用ください。コールセンターフリーダイヤルのご利  
用はできませんのでご了承ください。



1 609 92A 38X

1 609 92A 38X (2017.01)

## ストレートグラインダー GGS 28C 型



### 取扱説明書

このたびは、弊社ストレートグラインダーをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

- ご使用になる前に、この『取扱説明書』をよくお読みになり、正しくお使いください。
- お読みになった後は、この『取扱説明書』を大切に保管してください。わからないことが起きたときは、必ず読み返してください。

- 本取扱説明書に記載されている、日本仕様の能力・型番などは、外国語の印刷物とは異なる場合があります。
- 本製品は改良のため、予告なく仕様等を変更する場合があります。
- 製品のカatalog請求、その他ご不明な点がございましたら、お買い求めになった販売店または弊社までお問い合わせください。



# 目次

●安全上のご注意	2
警告表示の区分	2
電動工具全般についての注意事項	2
ストレートグラインダーについての注意事項	8
キックバックについての注意事項	16
●本製品について	17
用途	17
各部の名称	17
仕様	18
●使い方	19
作業前の準備をする	19
作業する	22
●困ったときは	25
修理を依頼するときは	25
●お手入れと保管	26
クリーニング	26
保管	26

ご安全上の注意

本製品について

使い方

困ったときは

お手入れと保管

# 安全上のご注意

- ◆ 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐため、次に述べる『安全上のご注意』を必ず守ってください。
- ◆ ご使用前に、この『安全上のご注意』すべてをよくお読みのうえ、指示に従って正しく使用してください。
- ◆ お読みになった後は、ご使用になる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
- ◆ 他の人に貸し出す場合は、一緒に取扱説明書もお渡しください。

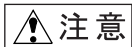
## 警告表示の区分

ご使用上の注意事項は  警告 と  注意 に区分していますが、それぞれ次の意味を表わします。




**警告**

- ◆ 誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。



**注意**

- ◆ 誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、 注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

## 電動工具全般についての注意事項

ここでは、電動工具全般の『安全上のご注意』についてご説明します。今回お買い求めいただいたストレートグラインダーには、当てはまらない項目も含まれています。

# 警告

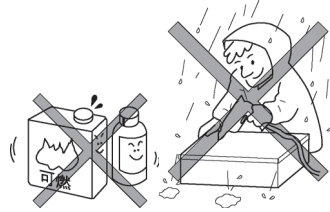
## 1. 作業場は、いつもきれいに保ってください。

ちらかった場所や作業台は、事故の原因となります。



## 2. 作業場の周囲状況も考慮してください。

- ◆ 電動工具は、雨ざらしにしたり、湿った、またはぬれた場所で使用しないでください。
- ◆ 作業場は十分に明るくしてください。
- ◆ 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。



## 3. 感電に注意してください。

- ◆ 電動工具を使用中、身体をアースされているものに接触させないようにしてください。  
(例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠)

## 4. 子供を近づけないでください。

- ◆ 作業員以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
- ◆ 作業員以外、作業場へ近づけないでください。

## 5. 使用しない場合は、きちんと保管してください。

- ◆ 乾燥した場所で、子供の手の届かない安全な所、または鍵のかかる所に保管してください。

## 6. 無理して使用しないでください。

- ◆ 安全に能率よく作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。
- ◆ モーターがロックするような無理な使い方はしないでください。

## 7. 作業に合った電動工具を使用してください。

- ◆ 小型の電動工具やアタッチメントは、大型の電動工具で行う作業には使用しないでください。
- ◆ 指定された用途以外に使用しないでください。

## 8. きちんとした服装で作業してください。

- ◆ だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので着用しないでください。
- ◆ 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めのついた履物の使用をお勧めします。
- ◆ 長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆ってください。



## 9. 保護めがねを使用してください。

- ◆ 作業時は、保護めがねを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。

## 10. 防音保護具を着用してください。

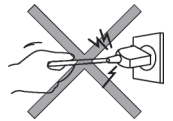
- ◆ 騒音の大きい作業では、耳栓、耳覆い（イヤマフ）などの防音保護具を着用してください。

## 11. 集じん装置が接続できるものは接続して使用してください。

- ◆ 電動工具に集じん機などが接続できる場合には、これらの装置に確実に接続し、正しく使用してください。

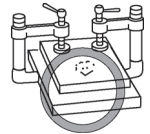
## 12. コードを乱暴に扱わないでください。

- ◆ コードを持って電動工具を運んだり、コードを引っ張って電源コンセントから抜かないでください。
- ◆ コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。



## 13. 加工するものをしっかりと固定してください。

- ◆ 加工するものを固定するために、クランプや万力を使用してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。



## 14. 無理な姿勢で作業をしないでください。

- ◆ 常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。

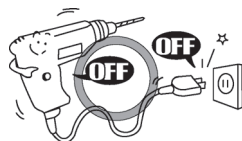


## 15. 電動工具は、注意深く手入れをしてください。

- ◆ 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。
- ◆ 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
- ◆ コードは定期的に点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店、またはボッシュ電動工具サービスセンターに修理を依頼してください。
- ◆ 延長コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。
- ◆ 握り部は、常に乾かしてきれいな状態に保ち、油やグリースなどが付かないようにしてください。

## 16. 次の場合は、電動工具のスイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。

- ◆ 使用しない、または修理する場合。
- ◆ 刃物、砥石、ビットなどの付属品を交換する場合。
- ◆ その他危険が予想される場合。



## 17. 調節キーやレンチなどは、必ず取り外してください。

- ◆ 電源を入れる前に、調節に用いたキーやレンチなどの工具類が取り外してあることを確認してください。

## 18. 不意な始動は避けてください。

- ◆ 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントに差し込む前に、スイッチが切れていることを確認してください。

## 19. 屋外使用に合った延長コードを使用してください。

- ◆ 屋外で使用する場合、キャブタイヤコード、またはキャブタイヤケーブルの延長コードを使用してください。

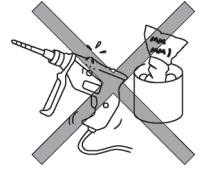
## 20. 油断しないで十分注意して作業を行ってください。

- ◆ 電動工具を使用する場合は、取り扱い方法、作業の仕方、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- ◆ 常識を働かせてください。
- ◆ 疲れている場合は、使用しないでください。



## 21. 損傷した部品がないか点検してください。

- ◆ 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。
- ◆ 可動部分の位置調整、および締め付け状態、部品の破損、取り付け状態、その他運転に影響を及ぼすすべての個所に異常がないか確認してください。
- ◆ 破損した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。  
取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店、またはポッシュ電動工具サービスセンターに修理を依頼してください。  
スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店、またはポッシュ電動工具サービスセンターに修理を依頼してください。
- ◆ スイッチで始動、および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。



## 22. 異常や故障時には、直ちに使用を中止し、すぐに電源プラグを電源コンセントから抜いてお買い求めの販売店、またはポッシュ電動工具サービスセンターに、点検、修理を依頼してください。

そのまま、使用すると発煙・発火、感電、けがに至る恐れがあります。

<異常・故障例>

- ・電源コードや電源プラグが異常に熱い。
- ・電源コードに深いキズや変形がある。
- ・コードを動かすと、通電したりしなかったりする。
- ・焦げくさい臭いがする。
- ・ビリビリと電気を感じる。
- ・スイッチを入れても動かない。 など

## 23. 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。

- ◆ この取扱説明書、およびポッシュ電動工具カタログに記載されている付属品やアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの原因となる恐れがあるので使用しないでください。

## 24. 電動工具の修理は、専門店で依頼してください。

- ◆ この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- ◆ 修理は、必ずお買い求めの販売店、またはボッシュ電動工具サービスセンターにお申し付けください。

修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因となります。

**この取扱説明書は、大切に保管してください。**



## ストレートグラインダーについての注意事項

電動工具全般の『安全上のご注意』について、前項ではご説明しました。ここでは、ストレートグラインダーをお使いになるうえで、さらに守っていただきたい注意事項についてご説明します。

ご安全  
注意の



**警 告**

1. 作業の条件・内容を考慮して、目的に合った電動工具を用意し、アクセサリーを選定してください。
  - ◆ 目的に合っていない電動工具の使用は、事故やけがの原因となります。
2. 本機は、サンディングペーパーを使用した研削・研磨や砥石切断には適していません。
  - ◆ 電動工具の設計上で想定されていない作業を行うと、危険が発生し、けがをする恐れがあります。
3. 必ず、銘板に表示してある電圧の電源を使用してください。
  - ◆ 表示を超える電圧で使用しますと、回転数が異常に高速となりけがの原因になります。
4. 電動工具の電源プラグと電源コンセントは対応している必要があります。絶対に電源プラグを加工しないでください。アースした（接地した）電動工具にアダプタープラグを使用しないでください。
  - ◆ 電源プラグを加工せず、対応した電源コンセントを使用することで、感電の危険を低減できます。
5. 作業開始前に、取り付けは間違いないか、各部品の損傷はないかなど、電動工具の使用に問題がないことを確認してください。損傷などあれば、使用せずに修理をご依頼ください。
  - ◆ 多くの事故は、点検作業を怠ったときに起きています。

6. 取扱説明書に記載されている用途、または能力以上の作業に使用しないでください。特にモーターをロックさせるなどの無理な使用はしないでください。

◆ 発煙・発火の原因になります。

7. 疲労していたり、薬・アルコールを服用していたりするときには、使用しないでください。

◆ 電動工具操作中に一瞬でも注意力が低下すると、重大なけがをする危険があります。

8. 保護面や保護めがねなどの保護具を着用してください。必要に応じて、防じんマスクや防音保護具（耳栓など）、滑り止め付き安全靴、ヘルメット、手袋、作業用エプロンを着用してください。

保護めがね：作業によって生じた破片の飛散から目を守ります

防じんマスク：作業によって生じた粒子をろ過します

耳栓：騒音による被害を防ぎます（高強度の騒音に長い時間さらされると、難聴の原因となります）

9. 周囲の人を作業場から安全な距離だけ離してください。作業場に入る人は必ず保護具を着用してください。

◆ 作業付近から材料や破損したアクセサリーの破片が飛散したとき、けがをする恐れがあります。

10. この取扱説明書、およびボッシュカタログに記載されているアクセサリー以外は使用しないでください。

◆ 指定されたアクセサリー以外は、取り付けられたとしても安全に作業できない恐れがあります。

11. 最大許容速度以下の軸付砥石は使用しないでください。また、本体の回転速度にあった砥石を使用してください。

◆ 本体の回転数以下の砥石を使用すると、砥石が破壊し、けがの原因になります。

12. 電動工具の仕様（外径や厚み、能力）に合ったアクセサリーを使用してください。
  - ◆ 仕様に合っていないアクセサリーを使用すると、安全に作業できない恐れがあります。
13. スピンドルやコレットチャックのサイズに合ったアクセサリーを使用してください。
  - ◆ サイズが合っていないとバランスが取れず、過度に振動して電動工具をコントロールできなくなる恐れがあります。
14. 使用するホイールに適したサイズと形の、損傷がないマンドレルを使用してください。
  - ◆ 適したマンドレルは、ホイールの破損を防ぎます。
15. 冷却液が必要なアクセサリーは使用しないでください。
  - ◆ 水やその他の冷却液を使用すると、感電または感電死の恐れがあります。
16. 切削アクセサリーは手入れをし、鋭利さを保ってください。
  - ◆ 刃先が鋭利ならストレスなく、電動工具がコントロールできます。
17. ホイールは推奨された用途以外に使用しないでください。例えば、カットオフホイールの側面で研削しないでください。
  - ◆ カットオフホイールはホイールの円周で研削することを目的としたアクセサリーのため、ホイールに横から力が加わると壊れる恐れがあります。
18. アクセサリーは、コレットチャックに完全に差し込んでください。
 

アクセサリーとコレットチャックの間隙は、最小限にしてください。

  - ◆ マンドレルが完全に締めつけられていなかったり、アクセサリーが出っ張りすぎていたりすると、アクセサリーが緩んで、勢いよく飛び出す恐れがあります。

19. アクセサリーを交換したり、調整したりしたときは、コレットチャック、調整装置などが確実に締められていることを確認してください。
  - ◆ 緩んでいると、予想外の動きをして、電動工具をコントロールできなくなる恐れがあります。
20. 本体を万力などで固定して使用しないでください。
  - ◆ 砥石が破壊したとき、けがの原因になります。
21. 雨中での作業は行わないでください。また、電動工具を雨ざらしにしたり、ぬれた場所に置いたりしないでください。
  - ◆ 感電の恐れがあります。
22. やむを得ず、湿気の多い場所で使用する場合は、漏電遮断器(RCD)を設置して給電してください。
  - ◆ 漏電遮断器の設置で、感電する危険が低減されます。
23. 意図せず作動開始しないよう、気をつけてください。必ずスイッチが“切”になっていることを確かめた上で、電源に接続したり電動工具を持ち上げたりしてください。
  - ◆ スイッチが“入”状態で電動工具に通電したりスイッチ部分に指が触れたりすると、事故の原因になります。
24. 可燃物の近くで電動工具を使用しないでください。
  - ◆ スパークで可燃物が発火する恐れがあります。
25. 一方の手で加工する物を持ち、もう一方の手で電動工具を持って作業しないでください。
  - ◆ だぼロッド、パイプなど丸い材料は、加工中に回転しやすく、アクセサリが食い込んだり跳ねたりする恐れがあります。加工する物を固定すれば、両手で電動工具がコントロールできます。
26. 砥石にヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。
  - ◆ 異常があると、砥石が破壊し、けがの原因になります。

27. 水、研削液などは使用しないでください。

◆ 乾式用のため、砥石の破壊や感電の恐れがあり、事故の原因になります。

28. 電動工具の起動時は、ハンドルを手でしっかり保持してください。

◆ モーターが最高速度まで加速するとき、モーターの反作用によりシャフトがねじれます。確実に保持していないと、事故の原因になります。

29. 電動工具の使用中は、関係者以外の人や子供を近づけないでください。

◆ 気が散ると集中できなくなります。

30. 使用中は、振り回されないよう本体を確実に保持してください。

◆ 確実に保持していないと、事故の原因になります。

31. 電線が通っているような場所で作業するときは、必ずハンドルの絶縁されたグリップ面で電動工具を保持してください。

◆ アクセサリーが通電している電線に接触して電動工具の金属に電気が流れると、感電する恐れがあります。

32. 使用中は、回転部に手や顔などを近づけないでください。

◆ 近づけると、けがの原因になります。

33. 回転するアクセサリーにコードなどが触れないようにしてください。電動工具がコントロールできなくなったとき、コードが切断されたり、電動工具にコードが巻き込まれたりする恐れがあります。

◆ コードが巻き込まれた場合、手や腕が回転するアクセサリーの中へ引き込まれる恐れがあります。

34. 研削砥石や切断砥石を使用する際、研削火花を吸じんしないでください、

◆ 吸じんホースやクリーナーが引火し、火災の原因になります。

35. 研削粉は火花となって飛散するので、引火しやすいもの、傷付きやすいものは安全な場所に遠ざけてください。また、研削火花を直接手足などに当てないようにしてください。

◆ 火花が飛散したとき、火災ややけどの原因になります。

36. 回転させたまま、台や床などに放置しないでください。

◆ 作動させたまま放置すると、事故の原因になります。

37. 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音がしたときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店、またはポッシュ電動工具サービスセンターに点検・修理を依頼してください。

◆ そのまま使用していると、事故の原因になります。

38. 誤って落としたり、ぶつけたときは、砥石や機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。

◆ 破損や亀裂、変形があると、事故の原因になります。

39. [事業者の方へ] 砥石の交換・試運転は、法・規則で定める特別教育を受けた人に行わせてください。

関連法令 労働安全衛生法 第59条

労働安全衛生規則 第36条

労働安全特別教育規程 第1条、第2条

40. 不意の作動によるけがの発生を防ぐため、調整・付属品の交換・保管をするときは、必ず電源プラグを電源コンセントから抜いてください。

◆ 電源プラグを差したままにすると、けがの原因になります。

41. 使用しないときは、子供の手の届かない安全な場所に保管してください。また、電動工具の取り扱いや手順に不慣れな人には操作させないでください。

◆ 教育を受けていない人の操作は大変危険です。

42. メインスイッチを“入”にしたまま、電動工具を持ち運ばない  
てください。

- ◆ 回転しているアクセサリーが思いがけず身体に当たると、衣服に引っ掛かり、身体が引き込まれる恐れがあります。

43. 鉛コーティングしてある作業材料やある種の木材、鉱物や金属への作業から発生する粉じんは、健康に悪影響を与える恐れがあります。作業者や見学者が粉じんを触ったり吸い込んだりすると、アレルギー反応、あるいは呼吸器感染症を引き起こす可能性があります。

特に樫材やブナ材から出る粉じん、木材処理添加物（クロム酸、防腐剤）は発がん性があると考えられています。

アスベストを含む材料への作業は、専門知識のある方にのみ許されています。

- ・ できる限り、材料に合った吸じん装置を使用してください。
  - ・ 作業場所の換気に注意してください。
  - ・ D S 2 クラス以上のフィルター付き防じんマスクの着用をお勧めします。
- ◆ 作業場で粉じんの堆積は避けてください。容易に発火する恐れがあります。



## 注 意

ご安全  
注意の

1. アクセサリー（砥石など）や付属品は、取扱説明書に従って確実に取り付けてください。
  - ◆ 確実でないと、外れたりし、けがの原因になります。
2. 新しい砥石を取り付け、はじめてスイッチを入れるときは、砥石の露出部から一時身体を避けてください。
  - ◆ 砥石が破壊したとき、けがの原因になります。
3. 試運転を励行してください。

試運転時間は〔砥石交換のとき…………… 3分間以上〕  
〔その日の作業始めのとき… 1分間以上〕です。

  - ◆ 試運転せずに作業を開始すると、思わぬ事故の原因になります。
4. 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。また、コードを引っかけたりしないでください。
  - ◆ 材料や機体などを落としたときなど、事故の原因になります。
5. 砥石類は、本体の回転数に合った市販品を使用してください。
6. 通風孔はふさがないようにください。
  - ◆ 内部が異常に高温となり、事故の原因になります。
7. 無理に押しつけて、回転数が大幅に低下するようなことはしないでください。
  - ◆ 作業効率が低下するだけでなく、砥石軸が変形したりしてけがの原因になります。



## キックバックについての注意事項

ご安全  
注意の

キックバックとは、砥石などが材料に挟まれたり、食い込んだりしたとき、砥石などが突発的に反発し、工具が抑えきれなくなり、跳ね上がることです。キックバックは、工具の誤用や誤った操作手順・作業状況の結果です。安全上の注意を守ることで、キックバックによるけがなどを避けることができます。

1. 工具をしっかり保持してキックバックの衝撃に耐えられる姿勢をとってください。
  - ◆ 電動工具をしっかり保持すると、キックバックの衝撃をコントロールすることができます。
2. 回転する砥石のそばに手を置かないでください。
  - ◆ キックバックで工具が跳ね上がったとき、けがの原因になります。
3. キックバックが起こると、モーターの回転方向とは反対方向に工具が跳ね上がります。跳ね上がる方向に、体を置かないでください。
4. コーナーや鋭いへりなどを加工するときは、特に注意してください。
  - ◆ コーナーや鋭いへりの加工は、砥石が引っかかったり、キックバックやコントロール不能が発生したりする傾向があります。
5. チェーンソーなど歯のあるアクセサリーを取り付けしないでください。
  - ◆ 歯のあるアクセサリーは、頻繁にキックバックとコントロール不能をもたらします。

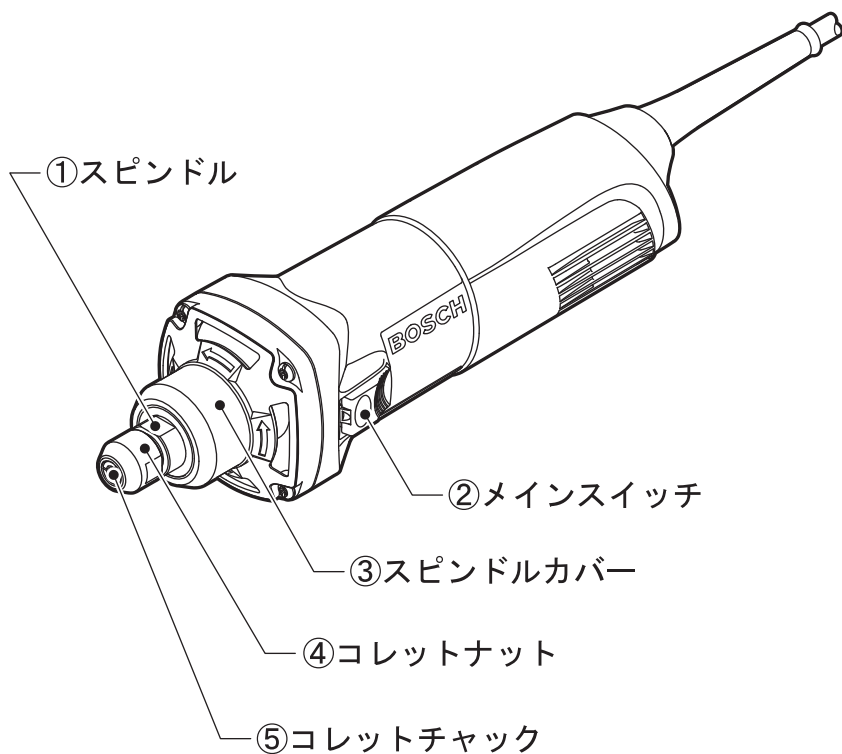
# 本製品について

## 用途

- ◆ 金属のバリ取り・研磨

## 各部の名称

本  
製  
品  
に  
つ  
いて



- ◆このイラストの形状・詳細は、実物と異なる場合があります。

## 仕 様

型 番	GG5 28C
電 源	単相 AC 100V 50/60 Hz
消費電力（入力）	550 W
出 力	350 W
回転数	30,000 min <sup>-1</sup> （回転／分）
コレット径	
標準付属	6 mmφ
最大取り付け可能	8 mmφ
スパナサイズ	
コレットナット	19 mm
スピンドル	19 mm
スピンドルカラー径	43 mm
最大使用可能砥石径	50 mmφ
質 量	1.4 Kg
振動 3 軸合成値	
研削時（砥石径 25mmφ）	3 m/s <sup>2</sup>
研削時（砥石径 50mmφ）	8 m/s <sup>2</sup>
	EN60745 規格に基づき測定

# 使い方

## 作業前の準備をする



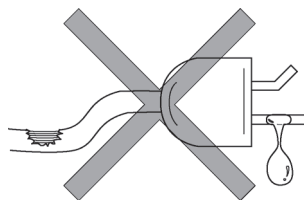
### 警告

- ◆ 作業前の準備をするときは、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。
- ◆ 電源コードや電源プラグが損傷しているときは、直ちに使用を中止してください。お買い求めの販売店またはポッシュ電動工具サービスセンターに修理を依頼してください。



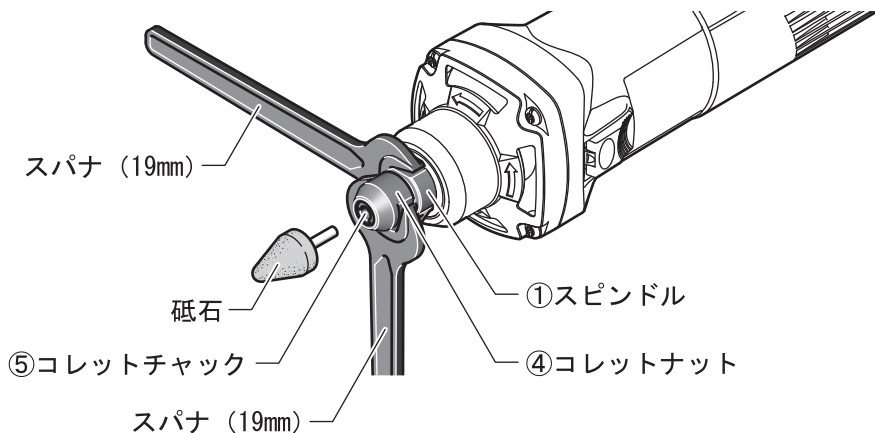
## ● 使用電源を点検する

- 単相 AC100V (50/60Hz) か？
- コンセント不良（ガタ）のため、電源プラグが簡単に抜けないか？
- 電源コードが断線していたり、電源プラグが破損していたりしていないか？



## ● アクセサリーを取り付ける・取り外す

☞ 損傷していないスパナ（19mm）を使用して、作業を行ってください。



使  
い  
方

### 取り付け



**警告**

- ◆ スピンドル①やコレットチャック⑤のサイズに合ったアクセサリーを使用してください。
- ◆ 使用するホイールに適したサイズと形の、損傷がないマンドレルを使用してください。
- ◆ 損傷したアクセサリーは、使用しないでください。
- ◆ 砥石は、本機の回転数に合ったもの（市販品）を使用してください。
- ◆ アクセサリーを取り付けたら、アクセサリーの回転面から自分自身と周囲の人を離し、電動工具を無負荷最高速度で1分間運転してください。

1. スピンドル①周辺を清掃します。
2. スパナを使用して、スピンドル①を保持します。
3. スパナを使用して、コレットナット④を緩めます。

4. アクセサリーの軸を、コレットチャック⑤の奥まで差し込みます。



**警告**

- ◆ アクセサリーは、コレットチャック⑤に完全に差し込んでください。
- ◆ アクセサリーとコレットチャック⑤の隙間は、最小限にしてください。


5. スピンドル①を保持したまま、スパナを使用してコレットナット④を締めます。



**警告**

- ◆ 確実に締め付けられていることを、確認してください。

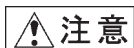
6. アクセサリーの回転面から自分自身と周囲の人を離し、電動工具を無負荷最高速度で1分間運転させます。

 アクセサリーが損傷していると、通常このときに破損します。

使  
い  
方

## 取り外し

1. スパナを使用して、スピンドル①を保持します。
2. スパナを使用して、コレットナット④を緩めます。
3. アクセサリーを、引き抜きます。
4. スピンドル①を保持したまま、スパナを使用してコレットナット④を締めます。



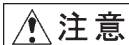
**注意**

- ◆ アクセサリーが取り付けられていないときは、コレットナット④を完全に締め付けしないでください。



### 警告

- ◆ 不意の作動によるけがの発生を防ぐため、電源プラグを電源コンセントに差し込む前に、「メインスイッチ②」が“切”になっていることを確認してください。




### 注意

- ◆ 必ず試運転を行い、砥石にヒビや割れがないことを確認してください。（労働安全衛生規則第118条）

#### ※試運転時間

- ・ 砥石交換時                    3分以上
- ・ 作業開始時                   1分以上

- ◆ 加工物は、万力やクランプなどを利用して、しっかりと固定してください。
- ◆ 作業中は、回転が停止するような強い力で過負荷を与えないでください。
- ◆ 作業する前には、必ず先端工具を点検してください。ヒビ割れ、欠け、曲がりがある場合は、使用しないでください。
- ◆ 本機は乾式のみで使用してください。

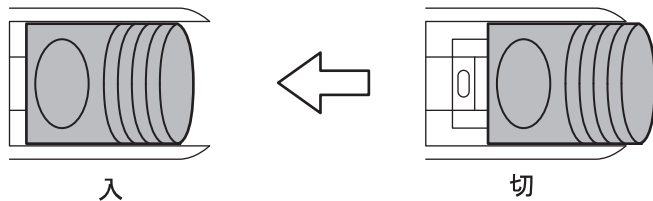
 本機は、下記のような安全で使いやすい特性を持っています。

## 電子制御機構

- ・ ソフトスタート                    : 始動時の反動を低減します。
- ・ コンスタントスピード            : 常に一定回転速度を維持し作業効率を高めます。
- ・ 過負荷保護装置                    : 一定以上の負荷が加わると自動的にモーターが停止し、焼損を防止します。負荷を取り除くことで再始動します。

# 1 電源プラグを電源コンセントに差し込む

# 2 「メインスイッチ②」を“入”にする

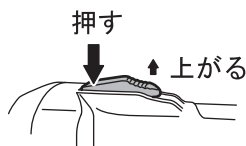


1. 「メインスイッチ②」を本体の先端方向にスライドさせます。  
→先端工具が回転します。



☞ この時点では「メインスイッチ②」は固定されていません。スイッチから指を離すと“切”の位置に戻り、回転が停止します。

2. 「メインスイッチ②」の先端を本体に押し込みます。  
→スイッチが“入”に固定され、連続運転します。



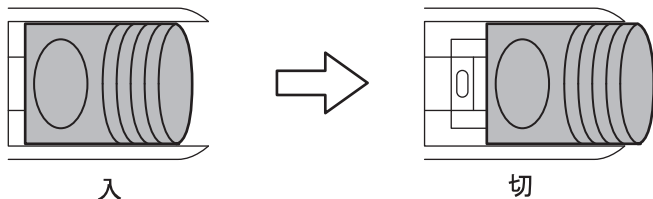
☞ 「メインスイッチ②」は、研削砥石が加工材等に当たらない位置で“入”にしてください。



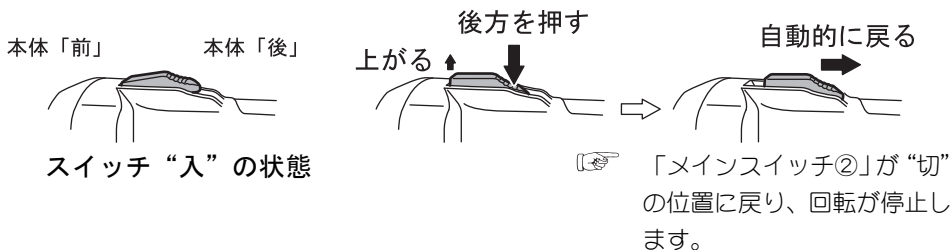
### 3 作業をする

- ☞ 作業は、回転が完全に上昇してから開始してください。
- ☞ アクセサリーを加工物に、無理に押し付けしないでください。過度に荷重をかけると研削能力が低下するうえに、仕上げもきたなくなります。また、モーターの故障の原因にもなりますので注意してください。

### 4 「メインスイッチ②」を“切”にする



1. 「メインスイッチ②」の後方を押します。  
→スイッチが“切”の位置に自動的に戻り、停止します。



### キックバック機構

作業中に先端工具を瞬時に停止させる負荷がかかった場合、作業者に大きな危険が生じます。瞬時に一定以上の負荷が掛かった場合、自動的にモーターが停止し使用者を保護します。

再始動させるには、「メインスイッチ②」を“切”にし、再度“入”にしてください。

# 困ったときは

## 修理を依頼するときは

- ◆ 修理を依頼されるときは、お買い求めの販売店またはボッシュ電動工具サービスセンターにご相談ください。
- ◆ この製品は厳重な品質管理体制の下に製造されています。万一、本取扱説明書に書かれたとおり正しくお使いいただいたにもかかわらず、不具合（消耗部品を除きます）が発生した場合は、お買い求めの販売店または、ボッシュ電動工具サービスセンターまでご連絡ください。弊社で現品を点検・調査のうえ、対処させていただきます。お客様のご使用状況によって、修理費用を申し受ける場合があります。あらかじめご了承ください。

コールセンターフリーダイヤル ☎ 0120-345-762

土・日・祝日を除く、午前9:00～午後6:00

※携帯電話からお掛けのお客様は、TEL. 03-5485-6161 をご利用ください。  
コールセンターフリーダイヤルのご利用はできませんのでご了承ください。

ボッシュ株式会社ホームページ <http://www.bosch.co.jp>

ボッシュ電動工具サービスセンター

〒360-0107 埼玉県熊谷市千代 39

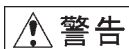
TEL 048-536-7171 FAX 048-536-7176

ボッシュ電動工具サービスセンター西日本

〒811-0104 福岡県糟屋郡新宮町の野 741-1

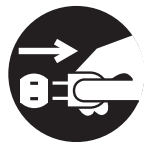
TEL 092-963-3486 FAX 092-963-3407

# お手入れと保管



**警告**

- ◆ 不意の作動によるけがの発生を防ぐため、電源プラグを電源コンセントから抜いて、お手入れしてください。




## クリーニング

### ● 通風口などに付いたゴミ、ホコリを吹き飛ばす

 本体に切り粉やホコリがたまると故障の原因になります。

### ● 乾いた、柔らかい布で本体の汚れをふき取る

 変色の原因になるベンジンなど、溶剤を使わないでください。



### ● モーターを無負荷運転させる

## 保 管

### ● ストレートグラインダーを使った後は、きちんと保管する

- 先端工具類（砥石など）は、本体から取り外しておく。
- 子供の手が届くところ、または錠が掛からないところに置かない。
- 風雨にさらされたり、湿度の高いところに置かない。
- 直射日光が当たったり、車中など高温になるところに置かない。特に、50℃以上になるところに置かない。
- ガソリンなど、引火性が高いものの近くに置かない。

